

収納家具専門店 **ギャラリー収納**

「生活収納家具」使用の手引き

- Fシリーズ
- Sシリーズ

- **ギャラリー収納 銀座**
〒104-0061 東京都中央区銀座5-12-5 白鶴ビル1F
Tel. 03-3524-0811 Fax. 03-3524-0813
- **ギャラリー収納 御堂筋**
〒541-0054 大阪市中央区南本町3-6-14 イトビル1F
Tel. 06-6243-5571 Fax. 06-6243-5572

galleryshuno.co.jp

2022.3



この度はギャラリー収納の製品をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。

生活収納家具 Fシリーズ・Sシリーズは、
自由にレイアウトを変えたり、買い足し・移動できる収納家具です。
その時々のご生活スタイルの変化にもフレキシブルに対応できます。

家具を永く快適にお使いいただくために、この冊子をよく読みお役立てください。
別添えの保証書は今後のお買い上げの際にもそのつど発行されます。
本手引き書、及びプラン図面・お見積書と一緒にまとめて大切に保管してください。

お買い上げの製品につきましては、保証期間終了後も保証書記載のお申込みナンバーで
お問い合わせいただくことができます。
修理や追加ご用命の際にどうぞご利用くださいますようお願い申し上げます。

ギャラリー収納

— 目次 —

■ギャラリー収納 家具保証について……………	P.1
<input type="checkbox"/> 修理規定	
<input type="checkbox"/> 仕様変更について	
■ギャラリー収納 アフターサービス……………	P.2
<input type="checkbox"/> 家具の買い足し・組み替え・移動についてのご相談 — 引越しについて	
■使用上のお願い……………	P.3
■メンテナンス……………	P.4
<input type="checkbox"/> Fシリーズ・Sシリーズのお手入れの仕方	
■ユニットと各部の名称……………	P.5
<input type="checkbox"/> ユニットの名称	
<input type="checkbox"/> 各部の名称	
■連結用金具・キャップ位置図……………	P.6
■各部の外し方・取付け方……………	P.7
<input type="checkbox"/> 引出し	
<input type="checkbox"/> 横連結	
<input type="checkbox"/> 上下連結	
<input type="checkbox"/> 丁番カバー	
<input type="checkbox"/> 扉(丁番)	
<input type="checkbox"/> ダンパー(プルモーション)	
<input type="checkbox"/> 配線穴キャップ	
■各部の調整……………	P.9
<input type="checkbox"/> アジャスター調整方法	
<input type="checkbox"/> 扉の丁番調整方法	
■家具移動の手順とご注意……………	P.9
<input type="checkbox"/> 解体	
<input type="checkbox"/> 移動	
<input type="checkbox"/> 再設置	
■収納活用のヒント……………	P.13
<input type="checkbox"/> Fシリーズ — 引出しの活用	
<input type="checkbox"/> Sシリーズ — 可動帆立／可動棚板の取付け方	

■ギャラリー収納 家具保証について

ギャラリー収納でお買い上げいただいた製品につきまして、規定に従いお届け日より1年間無料修理をお約束いたします。製品に不具合がございましたら、ご購入先ギャラリー収納へご連絡ください。

- ◎納品時に、製品の数量・仕様の違いや、キズ・打痕・破損等の有無を必ずご確認ください。
万一、キズ・打痕・破損等が確認された場合は、誠にお手数ですが必ず納品後8日以内にご購入先ギャラリー収納各店へご連絡ください。尚、納品後9日以降は有料での取り扱いとなる場合がありますのでご注意ください。

□修理規定

- 正常な使用状態(本書「使用の手引き」・「本体添付ラベル」等の注意書きに従った使用方法)のもとで、製品に故障や不具合が生じた場合には無料で修理をいたします。
ご購入先ギャラリー収納へご連絡の上、修理に際し保証書をご提示ください。
※保証書は再発行いたしかねますので、本書と共に大切に保管してください。
- 保証期間内でも次の場合には有料修理になります。
 - ①使用上の誤り(本書「使用の手引き」・「本体添付のラベル」等の注意書きに従わない使用方法)や不適当な修理で故障及び損傷した場合
 - ②お届け後の移動、輸送、落下などにより故障及び損傷した場合
 - ③自然災害や公害、害虫などにより故障及び損傷した場合
 - ④保証書にお申込みナンバー／お客様名／保証有効年月日の記載がない場合
- 修理によってまだご使用可能な場合は、保証期間後も修理を承ります。
その場合は有料となりますが、より永く大切にご愛用いただけるよう、お買い求めいただいた年月日にかかわらず、ギャラリー収納が責任を持って修理させていただきます。
修理内容によっては、製品の特性上修理困難な場合があることをご了承ください。

□仕様変更について

当社製品はモデルチェンジなく永続的に生産していく定番収納家具です。
しかし、部品や材質などの仕様につきましては、改良を目的とした変更を行う場合があります、それによって製作中止となった旧仕様の製品・部品は、その後も一定期間は製作可能な体制にしています。
一定期間を過ぎた場合もご相談を承りますので、まずはギャラリー収納までお問合わせください。

調整について 丁番・アジャスター等の調整につきましては、日々のご使用により必要となるため実費にて承っています。
不具合が発生した場合には、ご購入先ギャラリー収納までご連絡ください。

■ギャラリー収納 アフターサービス

□家具の買い足し・組み替え・移動についてのご相談

- 家族構成の変化や生活スタイルの変化・模様替えなどに対して、ギャラリー収納のシステム家具は買い足し・組み替え・移動などフレキシブルに対応できます。
現在ご使用の当社既存家具を活かしながら、暮らし方の変化に合わせた新しいプランをご提案いたします。
□プランニングを希望される場合は、ご購入先ギャラリー収納各店へご連絡ください。
尚、買い足しのご予定がない場合でもプランニングは無料で承っておりますので、お気軽にご相談ください。(ご来店が困難なお客様は、電話やFAXにて承っております。)

- 【ご相談の手順】**
- 1：電話にて来店日時のご予約
 - 2：ご使用の当社既存家具プラン図と、設置予定場所の間取り図(寸法やコンセント位置等が分かる資料)をご持参
 - 3：当社家具でのレイアウトご相談(新規買い足し商品のお見積り)
 - 4：専門配送業者によるお見積り(組み替え・移動費など)
 - 5：お客様ご検討 → ご契約(ご入金)・作業日の決定
 - 6：作業当日(*新規買い足し商品のある場合は、お届けまで約1ヶ月かかります。)

引越しについて

- 引越しによる当社既存家具の移動(解体+移動+再設置)を、ギャラリー収納専門配送業者でも承っています。
ご新居への家具移動をご希望の際は、ご購入先ギャラリー収納各店へ早めにご相談ください。
○ご新居の設置場所に当社既存家具を現状プランのまま搬入できない場合は、当社家具での新しいレイアウトをご提案いたします。
○家具移動作業日は、通常「解体+移動+再設置」を一連の作業として1日で行います。
その為お客様自身の引越し日と同日での作業が難しく、その場合は別の日程でお願いしています。
※現住所から遠方へ引越しの場合、施工内容・製品量によっては「解体+移動+再設置」の全てを1日でお受け出来ない場合もあります。
○作業日程は専門配送業者のスケジュール確認が必要となりますので、当社家具レイアウト変更のご相談は早めにご連絡ください。(ご来店が困難なお客様は、電話やFAXにて承っています。)

尚、お客様自身で作業される場合や引越し専門業者を手配される場合は、P.7「各部の外し方・取付け方」／P.9「各部の調整」／P.9～12「家具移動の手順とご注意」をよくお読みの上、作業手順や注意点を必ずお守りいただき気をつけて作業を行ってください。

【ギャラリー収納 専門配送業者手配の手順】

- 1：電話にて来店日時のご予約
- 2：ご使用の当社既存家具プラン図と、ご新居の間取り図(寸法やコンセント位置等が分かる資料)をご持参
- 3：当社家具でのレイアウトご相談
- 4：必要に応じて現場調査 (*現場調査代金を頂く場合もあります。)
- 5：専門配送業者によるお見積り(解体・移動・再設置費)
- 6：お客様ご検討 → ご契約(ご入金)・移動作業日の決定
- 7：移動作業当日(*新規買い足し商品のある場合は、お届けまで約1ヶ月かかります。)

■ 引越しのお見積目安 *新規買い足し商品がない場合／料金設定は設置状況や移動距離などにより変動いたします。

当社既存家具の解体 + ご新居へ移動(配送) + ご新居にて再設置
= 移動家具商品金額の15% + 現場施工費(壁固定・埋め木処理・フィルター取付け等) + 消費税

■使用上のお願い

□設置場所について

- ・冷暖房器具の熱や強風などが直接当たる場所／長時間直射日光やスポット照明などが当たる場所／極端に乾燥した場所での使用は避けてください。製品に反りやひずみ、割れなどが起こる可能性があります。
- ・水のかかる場所や高温多湿場所での使用は避けてください。カビなどが発生する原因になります。
- ・ストーブなど引火する恐れのあるものを近くに置かないでください。火災の原因になり大変危険です。

□取り扱いについて

- ・次のような状態での使用は、転倒によるケガや破損・収納物落下の可能性があり大変危険です。
 - 家具の上立つ・座る／家具にぶら下がる・寄りかかる／物を立て掛ける／不安定な場所への設置
 - 椅子・踏み台など収納機能以外の目的での使用／キャスター付きの製品を激しく動かす・押して遊ぶ
- ・ガムテープ、両面テープなどの粘着テープは、塗装を傷める原因になりますので家具に直接貼らないでください。

□家具のにおいについて

- ・においが残っている場合は、よく晴れた日に家具の扉を開け部屋の換気を充分に行い、においを取り除くようにしてください。家具のにおいは塗料(純ポリウレタン樹脂塗装)によるもので、時間の経過とともに減少します。
- ・ギャラリー収納の家具は国土交通省で定められたホルムアルデヒド放散量基準値F☆☆☆☆の材料で製作しています。

□家具の移動について ⇒P.9～12「家具移動の手順とご注意」をご参照ください。

- ・引越しやレイアウト変更などで家具を移動する際は、必ずユニットどうしの連結用金具 **(A)ⓐ(H)** (P.6参照) を全て外し、床の上を引きずることなく1台ずつ両手でしっかり持って運んでください。
- ・天板の上に物を乗せた状態や収納物が収まった状態での家具移動は、転倒によるケガや破損・収納物落下の危険が伴います。必ず家具を一旦空の状態にしてから作業を行ってください。

□奥行が浅い製品について

- ・奥行が浅い製品(全てのSシリーズ／奥行400mm未満のFシリーズ)のみの組み合わせで設置の場合は、転倒の恐れがあります。必ず家具を壁に固定してください。
 - ・家具を移動される場合は、移動後も同じ状態で設置してください。
- ※壁固定工事が必要な場合はギャラリー収納へお問合わせください。

□天板などについて

- ・次のようなものを天板や棚板の上に直接置かないでください。変色・変形の原因となる可能性があります。
 - 加熱した鍋・カップなど／シンナー等の有機溶剤を含んだ布など／水分を含んだもの／ビニール・合成ゴム製品
- ・陶器など底面が硬くざらつきのあるものを天板や棚板の上に直接置かないでください。表面を傷つける可能性があります。

□引出しについて

- ・引出しの耐荷重量は10kgです。それを超える重量物の収納はレールが故障する原因となります。
- ・同時に複数の引出しを引出さないでください。収納物の重量で家具が転倒し、ケガや家具破損の恐れがあります。
- ・両サイドに取手のある引出しは、必ず左右両方の取手を持って開閉してください。
 - 片方の取手だけを持って開閉し続けると、レールが変形し故障する可能性があります。
- ・引出しレールのストッパーを外したままでの使用は、引出し全開時に危険を伴いますのでおやめください。

□各部金具について

- ・扉の丁番や引出しレール、取手などのネジが緩んでいないか時々点検し、緩み始めたらしっかり締め直してください。各部のネジが緩んだままでの使用は、故障や思わぬケガにつながり大変危険です。

□スライド天板について

- ・スライド天板の耐荷重量は10kgです。それ以上の重量物の設置や天板に体重を掛けることは、レールが故障する原因となります。

□棚板について ⇒P.14「収納活用のヒント」(可動帆立／可動棚板の取付け方)をご参照ください。

- ・棚受け金具(Fシリーズ用ダボピン・Sシリーズ用M字金具)は必ず溝の奥までしっかりと差し込み、1対の棚受け金具がそれぞれ水平位置に取付けられていることをご確認ください。
- ・棚板を取付けの際には必ず、棚板側の溝に棚受け金具(ダボピン・M字金具)をきっちりと収め、棚板の水平や安定具合を確認してください。

□ガラス製品について

- ・ガラス扉やガラス棚などのガラス製品については、特に小さなお子様がおられる場合、それに触れたり、体重を掛けたり、ぶつかったりしないようくれぐれもお気をつけください。

□家具取付けコンセントについて

- ・家具取付けコンセントは許容ワット数の表示に従いご使用ください。表示ワット数を超えてのご使用は火災の原因になり大変危険です。
- ・家具取付けコンセントのプラグを壁の電源から抜く際には、コードを持たず必ず先端のプラグを持って抜いてください。
- ・水のかかるところで使用しないでください。
- ・家具やキャスターなどでコードを踏まないでください。又、配線の際にはコードのねじれにご注意ください。
- ・万一使用中に異常が発生した場合は、即時使用を中止して安全をお確かめいただき、ご購入先ギャラリー収納各店までご連絡ください。

□電化製品の設置について

- ・電化製品を設置する場合は、電化製品の「取り扱い説明書」に従った使用方法に基づいてご使用ください。

■メンテナンス

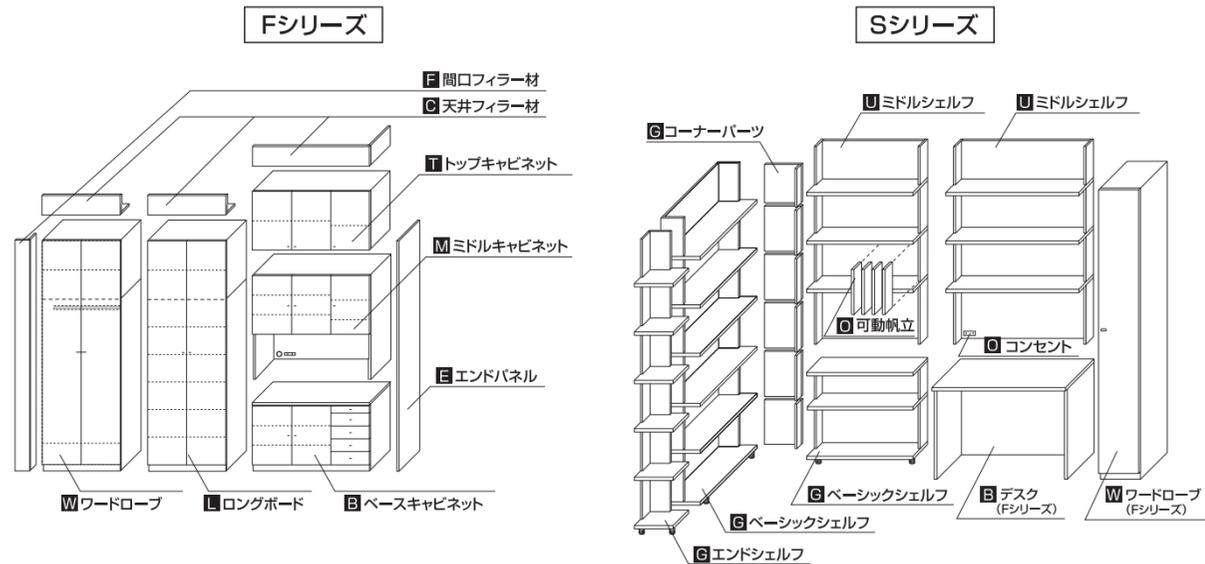
□Fシリーズ・Sシリーズのお手入れの仕方

- ・日常のお手入れは、軟らかい布で乾拭きしてください。
- ・汚れのひどい場合は中性洗剤を含ませた布で汚れを落とし、水で濡らして固く絞った布で洗剤を拭き取り、さらに乾いた布で水分をきれいに拭き取ってください。

■ユニットと各部の名称

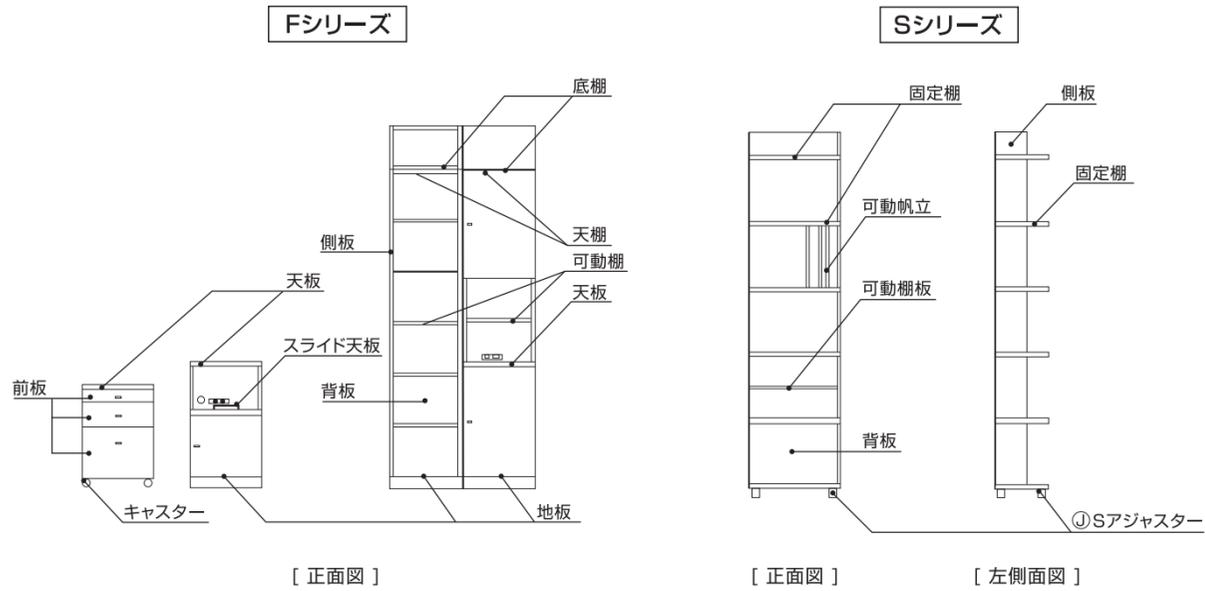
□ユニットの名称

FシリーズとSシリーズ。
違うシリーズどうしを組み合わせることもできます。(Fシリーズ—Sシリーズ間の上下・横連結可能)



その他: **■** 塗装背板…Fシリーズ/Sシリーズ共通
側面用の **■** エンドパネル同様、ユニットの背面に後付けする塗装部材です。
家具背面を正面と同じグレードに仕上げる場合に使用します。

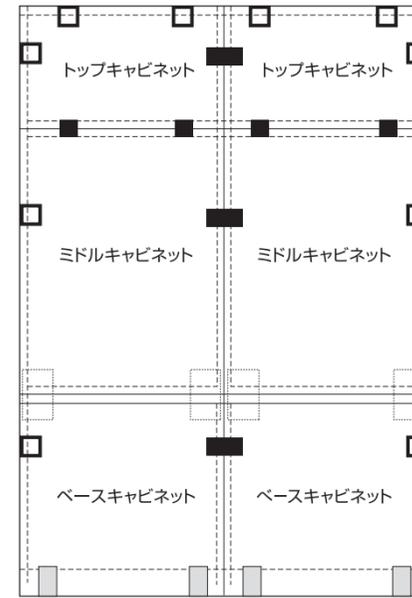
□各部の名称



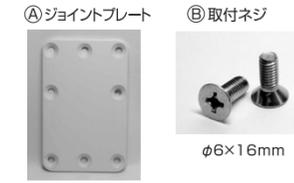
■連結用金具・キャップ位置図

⇒P.7「各部の外し方・取付け方」(横連結/上下連結)/P.9「各部の調整」をご参照ください。

Fシリーズ [正面図] (表側)



I. 裏側での上下連結



II. 上下・横連結



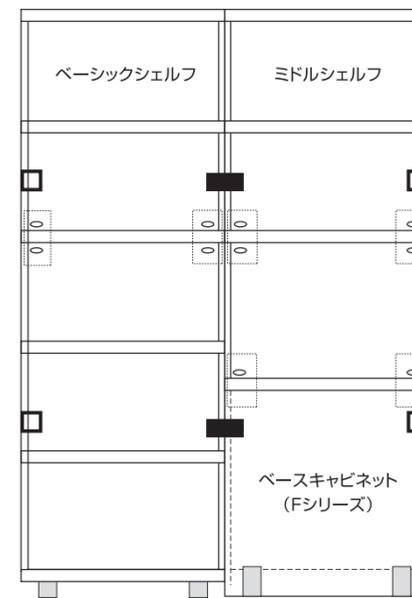
III. 未使用の連結穴隠し



IV. 家具の高さ調節



Sシリーズ [正面図] (表側)



I. 裏側での上下連結



II. 横連結



III. 未使用の連結穴隠し



IV. 家具の高さ調節

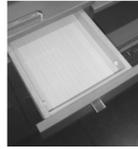


■各部の外し方・取付け方

⇒P.5「ユニットと各部の名称」/P.6「連結用金具・キャップ位置図」をご参照ください。

□引出し

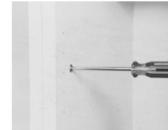
- 取外し 1. 引出し内側両サイド2ヶ所の白いネジを回して取外すと、レールと引出しが離れます。
2. この状態で引出しを手前にゆっくり引出します。
- 取付け 1. 引出し外側の溝にレールを差し込み、引出し内側のネジ穴とレールのネジ穴を合わせます。
(溝にレールを差し込み、引出しを一旦奥まで押し込んでから引出すとネジ穴が合います。)
2. 合わせたネジ穴に引出し内側両サイドから白いネジを取付け、レールと引出しを固定します。



□横連結

Fシリーズ / Sシリーズ 全て — ③ 連結金具を使用

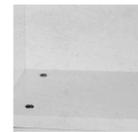
- 取外し 1. 横連結で合わさった2枚の側板の両側にある④ 連結金具カバーを外します。
※線にピンなどを押しながらかき出してください。外す際カバーに割れなどが発生した場合、新しいカバーとお取り替えますので、ギャラリ収納各店へお問い合わせください。
2. プラスドライバーで③ 連結金具を緩めて取外すと、ユニットどうしが左右に離れます。
※引出しユニットの場合は、引出しを外してから作業となります。
- 取付け 1. 横連結で合わさる2枚の側板の連結穴位置を合わせます。
2. 1対の③ 連結金具を合わさった連結穴の両側2方向から差し込み、プラスドライバーで締め付けます。
3. 連結金具の頭に④ 連結金具カバーをはめます。
※セミオーダーでサイズを変更した場合/基本サイズの組合せでない場合は連結穴位置が合いません。
芯材が入った場所に木ネジで直留めしてください。



□上下連結

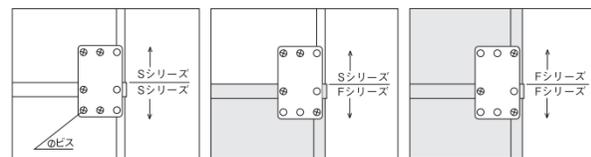
Wワードローブ / Lロングボード / Mミドルキャビネット + Tトップキャビネット — ③ 連結金具を使用

- 取外し 1. 上下連結で合わさった、最上部のボックス底棚とその下のボックス天棚の上下にある④ 連結金具カバーを外します。
2. プラスドライバーで③ 連結金具を緩めて取外すと、ユニット(ボックス)どうしが上下に離れます。
- 取付け 1. 上下連結で合わさる、最上部のボックス底棚とその下のボックス天棚の連結穴位置を合わせます。
2. 1対の③ 連結金具を合わさった連結穴の上下2方向から差し込み、ドライバーで締め付けます。
3. 連結金具の頭に④ 連結金具カバーをはめます。
※H2000mm以上の一枚扉ユニット/オプション一枚扉仕上げのユニットは、ボックスを上下に連結しており、扉を外してからの作業となります。



B ベースキャビネット + Mミドルキャビネット又は Uミドルシェルフ / Sシリーズどうし — ① ② ジョイントプレートを使用

- 取外し 1. 家具裏側の① ジョイントプレートの② 取付ネジをプラスドライバーで緩め、ジョイントプレートを外します。
2. Sシリーズの場合、同時に家具背板の表側に出ている④ ジョイント金具を外れユニットどうしが上下に離れます。
- 取付け 1. 家具裏側の天板・側板厚み部分にある連結用埋込み金具(シルバー色)、又はSシリーズの家具裏側の背板部分にある横並び2つ穴に、① ジョイントプレートの穴位置を合わせます(下絵参照)。
2. Sシリーズの場合は、背板横並び2つ穴の表側から④ ジョイント金具を差し込んでおき、裏側には① ワッシャーをジョイントプレートの下に挟みます。表側から④ ジョイント金具を押し、裏側は背板とジョイントプレートの上に① ワッシャーを挟んだ状態で、① ジョイントプレートを② 取付ネジで締め付けます。
※1プレート分の② 取付ネジ留め数(3~5)と位置は、連結するユニットのシリーズによって異なります。(左右は反転)



□丁番カバー

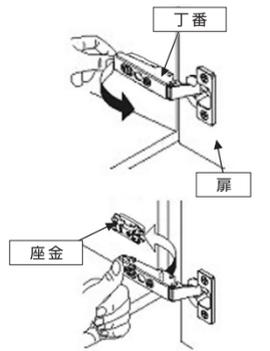
- 取外し 扉に近い方をつまみ、引く。



- 取付け 丁番に被せて押す。

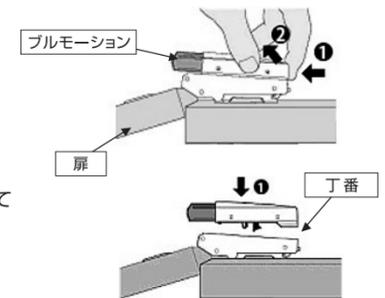
□扉(丁番)

- 取外し 1. 丁番カバーを外します。
2. 扉を全開にし、丁番奥のクリップ部分を図のように手前に引っ張りあげます。
※丁番にダンパーがついている場合はダンパーを先に外します。
(外し方は次項「ダンパー」に記載)
3. 扉(丁番)が外れます。
- 取付け 1. 丁番の手前のボール部分を座金の手前の、爪の凹みにしっかり合わせます。
2. 丁番の後ろをぐっと押してクリップをはめ込みます。
3. 「カチッ」という音がしましたら手を離します。
4. 丁番カバーを付けます。

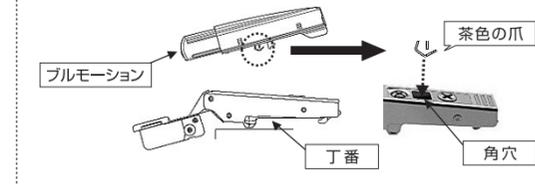


□ダンパー(ブルモーション)

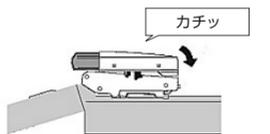
- 取外し 1. ブルモーション後部を上を持ち上げながら手前に引きます。
※必ず保護手袋をして使用してください。
2. ブルモーションが外れます。
- 取付け 1. 茶色の爪を丁番の角穴に入れ、ブルモーションの前方を固定して後方を押し込みます。
※無理に押し込むと爪が変形して丁番に取り付けられなくなったり、簡単に外れたりするようになります。絶対に爪を曲げないようにご注意ください。



詳細



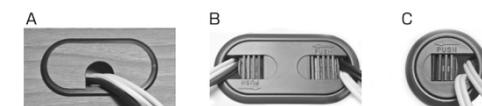
- 2. 「カチッ」という音がしましたら取付け完了です。
※簡単に外れないことをご確認ください。



□配線穴キャップ



- 取外し A. 1. 先の細いものを下部の穴に入れてキャップを取り外す。
2. 外れたキャップをさらに2つに分ける。
3. 分けた小さいキャップは大きいキャップの裏に取付けて保管できます。
- B, C. 1. ジャバラをスライドさせる。
2. 開いた部分に指を入れてキャップを取り外す。
- 取付け A, B, Cともに配線のプラグを通してからキャップを元に戻し、「カチッ」という音がするまで押し込んでください。



■各部の調整

⇒P.5「ユニットと各部の名称」/P.6「連結用金具・キャップ位置図」をご参照ください。

□アジャスター調整方法

床に直接置くユニット(**W**ワードローブ / **L**ロングボード / **B**ベースキャビネット / **G**ベーシックシェルフ)をお客様ご自身で移動・設置される場合は、床のひずみを補正する為にアジャスター調整を行ってください。

Wワードローブ / **L**ロングボード / **B**ベースキャビネット

1. ユニット内地板手前の左右2ヶ所にある **Ⓒ**アジャスター用穴隠しキャップを外します。
2. **Ⓔ**アジャスターをプラスドライバーで回します。
時計方向に回すと家具が持ち上がり、反時計方向に回すと家具が下がります。
※家具を移動する前には必ず**Ⓔ**アジャスターを反時計方向一杯に回し上げ、効きをゼロに戻してください。
※引出しユニットの場合は、引出しを外してから作業となります。



Gベーシックシェルフ

家具の底面手前2ヶ所に取付けの黒い脚(**Ⓙ**Sアジャスター)を手で回します。
時計方向に回すと家具が持ち上がり、反時計方向に回すと家具が下がります。



□扉の丁番調整方法

2番ビットスクリュードライバー(ボジ2ドライバー)をご用意ください。

はじめに

丁番カバーを外してください。

扉の前後調整

丁番の後方のネジを回し、扉の前後を調整します。



扉の左右調整

丁番の手前のネジを回し、扉の左右を調整します。



扉の上下調整

丁番の中央にあるネジを回し、扉の上下を調整します。



※仕様変更以前で2010年2月末までの期間に納品された製品は、座金が十字になっております。
お手持ちの製品の仕様をお確かめいただき、十字型の座金の場合は座金の右下(左扉は左下)にあるネジを回し、扉を上下に動かして調整を行ってください。

■家具移動の手順とご注意

⇒P.5「ユニットと各部の名称」/P.6「連結用金具・キャップ位置図」をご参照ください。

引越しやレイアウト変更などで家具移動をお客様ご自身で行う際にお読みください。

解体 → **移動** → **再設置**

※下記の解体方法で取外せない場合は、連結用金具を使用しない連結施工など、壁固定以外の現場施工がされている可能性があります。
埋め木/フィラー取付け/コンセントプレート移設等の現場施工が見られる場合はご購入先ギャラリー収納各店へご相談ください。

□解体

1. 棚板や可動帆立を取外す ⇒P.14「収納活用のヒント」(可動帆立/可動棚板の取付け方)をご参照ください。

- ・取外した棚板はユニットと別にして運んでください。
- ・棚受け金具(Fシリーズ用ダボピン・Sシリーズ用M字金具)はなくさないよう袋などに入れ、まとめて保管してください。

2. 取手を取外す

- ・引越し等で解体後に家具移動がある場合は、取手が他の物を傷つける恐れがあります。
- ・扉裏側/引出し前板裏側の取手用ネジ(2穴)をプラスドライバーで外し、一旦全ての取手を取外してください。

- 3-a. 引出しを取外す ⇒P.7「各部の外し方・取付け方」(引出し—取外し)をご参照ください。

- ・引出しユニットの場合、側板の横連結位置や地板のアジャスター位置が見えない状態になっています。
一旦全ての引出しを取外してください。

- b. 2つのボックスを上下連結し1ユニットとした製品の一枚扉(H2000mm以上のワードローブ及びロングボードの扉/オプション一枚扉仕上げの扉) / **E**エンドパネル / **P**塗装背板を取外す

※エンドパネル・塗装背板はオプションの部材となっています。

- 一枚扉……………P.8「各部の外し方・取付け方」(扉—取外し)をご参照ください。

※扉側に付いた丁番・本体側についた座金は取外さず、そのまま残しておいてください。

- エンドパネル… **直留め式**

エンドパネルを取付けたユニット側板の内側から外側エンドパネルに向かって木ネジで直留めています。

- ①まずユニット内側の木ネジ頭部を隠す **Ⓓ**連結金具カバーを外します。
- ②プラスドライバーで木ネジを回して取外すとエンドパネルとユニットが離れます。

- 塗装背板…………… **引掛け式**

ユニット背面に付いたフック金具に引掛けて取付けています。
塗装背板を両手で一旦上に持ち上げてフック金具から外し、手前方向へ移動させてください。
※一部、引掛け式ではなく、エンドパネルと同様にユニット背面に木ネジで直留め式のタイプもあります。
その場合はエンドパネルと同様の方法で取外してください。

4. 壁固定を外す

- ・壁固定はビス頭部を **Ⓓ**連結金具カバーで隠しています。連結金具カバーを外し、プラスドライバーで壁固定用ビスを取外してください。

※お客様ご自身で取外せない場合はご購入先ギャラリー収納各店へご相談ください。

5. 横連結を外す ⇒P.7「各部の外し方・取付け方」(横連結—取外し)をご参照ください。

- ・先に横連結を外し、下絵のように縦割りごとのブロックに解体します。

6. アジャスターを緩める ⇒P.9「各部の調整」(アジャスター調整方法)をご参照ください。

- ・床に直接置くユニット(**W**ワードローブ / **L**ロングボード / **B**ベースキャビネット / **G**ベーシックシェルフ)は、アジャスターを効かせたまま動かすと、床を傷つける可能性があります。
- ・ **Ⓔ**アジャスターを反時計方向一杯に回し上げ、効きをゼロに戻して(家具を完全に下げて)から動かしてください。

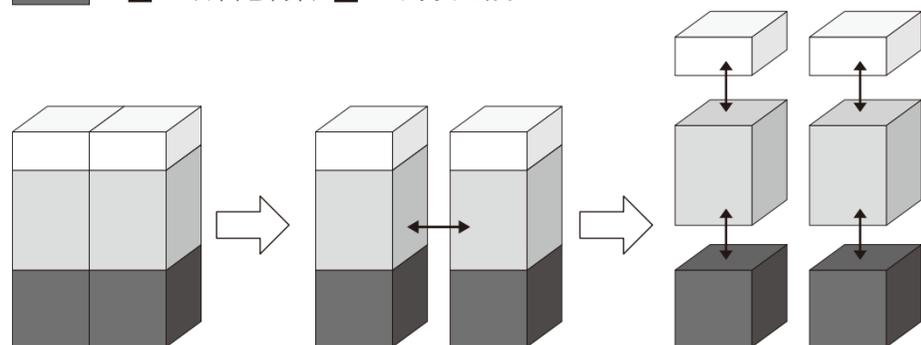
7. 上から順番に上下連結を外す ⇒P.7「各部の外し方・取付け方」(上下連結—取外し)をご参照ください。

- ・ **T**トップキャビネット及び一枚扉仕上げの上部ボックスは、その下のボックスと **Ⓒ**連結金具を使用した上下連結をしています。
- ・ **B**ベースキャビネット+ **M**ミドルキャビネット / **B**ベースキャビネット+ **U**ミドルシェルフ / **G**ベーシックシェルフ+ **U**ミドルシェルフは、家具裏側で **A**ジョイントプレートを使用した上下連結をしています。
家具を一旦上に持ち上げてから手前に少し移動させ、家具の背後に廻ってジョイントプレートを外します。
※家具取付けコンセントがある場合は、移動の前にコンセントコードのプラグを壁の電源より抜いてください。

注意事項

- ユニット解体の際、H2000mm以上ユニットの一枚扉／オプション一枚扉仕上げの扉以外の扉は取外さないでください。
- 家具の破損原因になりますので、ボックス単位になるまで全ての連結を外してから、家具を動かしてください。
 - ※ベースキャビネットの天板をオプションで一枚天板仕上げ(ユニット間の天板継目をなくす方法)に変更している場合は、一枚天板を載せた下の各ユニット仮天板の下側から、その上の一枚天板に向かって木ネジで直留めしています。
 - ①まずプラスドライバーで全ての木ネジを外し一枚天板を取外してから、②横連結を外してください。
- 取外した金具・キャップ類はなくさないよう種類ごとに袋などに入れ、ひとまとめにして保管してください。
- 一枚天板仕上げの天板／塗装背板／エンドパネル／扉などの取外した大きな塗装部材は、取扱いに充分ご注意ください。
 - 長手方向を縦にした状態で斜めに立て掛けておくと反りが出る可能性がありますので、仮置きされる場合も、床の上に直接寝かせて置く等、常に水平または垂直な状態を保つようにしてください。

- ... **T** トップキャビネット
- ... **M** ミドルキャビネット／**U** ミドルシェルフ
- ... **B** ベースキャビネット／**G** ベーシックシェルフ



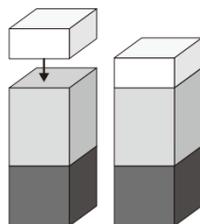
移動

- ・家具の移動は2人以上で1ユニットずつ、水平にして左右均等に両手でしっかり持って運んでください。
- ・引越しで家具を搬送される場合は、必ず家具をクッション材や毛布などで覆ってください。
- ・引越し又は別のお部屋への家具移動の場合、床や壁を傷つけないよう搬入経路を養生することをお勧めいたします。
- ・家具を持ち上げる際には引出し部分を持たないでください。引出しのレールが変形し故障する可能性が高く、大変危険です。
- ・一枚天板仕上げの天板／塗装背板／エンドパネル／扉などの取外した大きな塗装部材は、長手方向を縦にした状態で斜めに立て掛けておくと、仮置き程度でも反りが出る場合があります。
- 床の上に直接寝かせる等、常に水平または垂直な状態を保つよう取扱いには充分ご注意ください。

再設置

1. 下から順番に上下連結し、縦割りのブロックをつくる ⇒P.7「各部の外し方・取付け方」(上下連結—取付け)をご参照ください。

- ・ **B** ベースキャビネット+ **M** ミドルキャビネット／ **B** ベースキャビネット+ **U** ミドルシェルフ
- ・ **G** ベーシックシェルフ+ **U** ミドルシェルフは、家具裏側で **(A)** ジョイントプレートを使用して上下連結します。
- 家具全体を一旦設置予定場所より手前に仮置きし(家具背面に作業スペースが必要のため)、家具の背面で上下の連結作業を行ってから、家具を持ち上げ設置場所まで移動させてください。
- ※ **(A)** ジョイントプレートの **(B)** 取付ネジ留め数と位置は、連結するユニットのシリーズによって異なります。
- ・ **T** トップキャビネット及び一枚扉仕上げの上部ボックスは最上部に載せ、その下のボックスと **(C)** 連結金具を使用した上下連結をします。



2. レベル調整をする ⇒P.9「各部の調整」(アジャスター調整方法)をご参照ください。

- ・床が水平でない場合は家具が傾き横連結が難しくなります。
- まず、縦割りのブロックを並べて全体のバランスを見ながら、**(E)** **(J)** アジャスターなどで床のひずみを調整してください。

3. 横連結をする ⇒P.7「各部の外し方・取付け方」(横連結—取付け)をご参照ください。

4. **E** エンドパネル／**P** 塗装背板を取付ける

- ・ **直留め式**
 - エンドパネル、及び塗装背板の直留め式タイプ(一部)は、それらを取付けるユニットの内側から、外側のエンドパネル及び塗装背板に向かって、木ネジで直留めしてください。
 - ※木ネジの長さにご注意ください。
 - (留め合わせる部材2枚分の厚みを測り、木ネジの先端がエンドパネル・塗装背板の表面に突き抜けないことを必ず確認してください。)
- ・ **引掛け式**
 - 塗装背板は、両手で一旦しっかりと持ち上げて塗装背板裏側のフック金具位置とユニット背面の金具位置を合わせながら、最後に上から下へ下ろす要領で取付けてください。

5. 連結金具カバー／フリーキャップ／アジャスター用穴隠しキャップをはめる

- ・横連結が完了しユニット全体が組み上がったなら、ユニット内側・外側に見える連結金具の頭に **(D)** 連結金具カバー、未使用の連結穴に **(E)** フリーキャップ、**(F)** アジャスターに **(G)** アジャスター用穴隠しキャップをはめてください。

6-a. 引出しを取付ける ⇒P.7「各部の外し方・取付け方」(引出し—取付け)をご参照ください。

- b. 2つのボックスを上下連結し1ユニットとした製品の一枚扉 (H2000mm以上のワードローブ及びロングボードの扉／オプション一枚扉仕上げの扉)を元の位置に取付ける
- ⇒P.8「各部の外し方・取付け方」(扉—取付け)をご参照ください。

7. 棚板や可動帆立を取付ける

- ⇒P.4「使用上のお願い」(棚板について)／P.14「収納活用のヒント」(可動帆立・可動棚板の取付け方)をご参照ください。

8. 取手を取付ける

- ・取手用ネジは長さが2種類あり、長いネジ(約40mm)は引出し用／短いネジ(約24mm)は扉用です。

9. 扉調整をする ⇒P.8「各部の調整」(扉の丁番調整方法)をご参照ください。

- ・扉の合わせ部分にズレが生じた場合は、プラスドライバーで扉調整を行ってください。

■収納活用のヒント

お買い上げいただいたFシリーズ・Sシリーズの活用法をご紹介します。

ちょっとした収納方法の工夫で、使いやすく片付けやすい収納形態となり、毎日の暮らしが変わります。

次にご紹介するオプション商品は、ご購入先ギャラリー収納各店にて電話やファックスでもご注文を承ります。

Fシリーズ

□オプション

- トレー**……………トレーの利点は、トレーごと取り出して使う場所へ移動できること。一緒に使う小物ごとにまとめて収納しておきます。



ティーセット



スパイスセット



くすり



衣装小物など…

- ワイヤーバスケット**



通気性があり、重ねても下の物が見えるのが利点のバスケット。リネンやキッチン収納の食品入れに。

- 棚板**……………物の高さに合わせて棚板の位置や枚数・種類を変えると、収納力と機能がアップします。

ノーマル棚板



自在に取付け位置を変えられる棚板はこんな収納場所をつくり出します。

重量物用棚板



書籍や重い食器の収納に。芯材に積層材を使用。反りにくく安全です。

扉付きユニット



扉付きユニットの隣に並ぶオープンユニットの可動棚として。見た目がグレードアップします。

ハンガーパイプ付棚板



これで上下2段に分ければ、子供服やスカートをたっぷり収納できます。

スライドハンガー付棚板



奥行がとれない場所でもスライドハンガーを活用すれば、衣類をハンガー掛け収納できます。

□引出しの活用

前板高さ



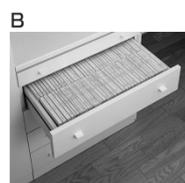
外寸 A70mm/B130mm/C173mm/D188mm/E262mm



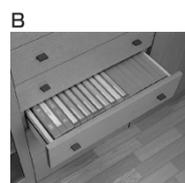
A
リビングの小物
家族全員が使う小物に指定席をつくります。



A
カトラリー
薄型の引出しは物を重ねずに収納できます。市販のトレー等を利用して。



B
文庫本
「本は本棚に」という固定概念を捨ててみましょう。



B
ビデオテープ
寝かせておくと傷みやすいテープ類は立てて収納。



B・C・D
食器
上から出し入れできる引出し収納は、小皿やカップ類の収納に。



C・D
鍋類
深めの引出しがあれば低い位置でも出し入れしやすくなります。



C・D
CD
収納場所に悩むCDも整理しやすく、意外とたくさん入ります。

注意事項

□引出しレールの耐荷重量は10kgです。
サイズの大きい引出しは、CDや食器等の小さくて重い物を引出し一杯に収納すると重量オーバーとなる可能性があります。入れ過ぎにはくれぐれもご注意ください。

Sシリーズ

□オプション

- 可動帆立／可動棚板**……………Sシリーズは全段が固定棚のオープンシェルフです。固定棚間は豊富なサイズの可動帆立・可動棚板を利用して、壁面を自由に構成してください。



本の整理

帆立H334mmと棚板使用で文庫本・CDを2段に。



仕切り

タテヨコ自由に組合せて飾りながら楽しく収納。



ワインラック

帆立H334mm×4枚
棚板W85mm×6枚

- 書類プレート**



すぐに使いたい書類や用紙類の収納に。
(帆立2枚の間に取付けます)

□可動帆立／可動棚板の取付け方

⇒P.4「使用上のお願い」(棚板について)をご参照ください。

可動帆立

1. 付属のM字金具1個(2本の足)を上部固定棚下面前後2ヶ所のダボ穴に縦向きに差し込みます。(左右へ5cm刻みで移動可)



2. 可動帆立上面の溝と取付けたM字金具の位置を合わせて差し込み、ゆっくり奥へスライドさせます。可動帆立背面下部についたダボピンを家具背板下部のダボ穴に差し込みます。



可動棚板

1. 可動帆立を可動棚板の幅に合わせた位置に上記要領で左右2枚取付けます。付属のM字金具2個を左右の可動帆立内側の前後2ヶ所のダボ穴にそれぞれ水平に差し込みます。(上下へ6cm刻みで移動可)



2. 可動棚を水平に持ち、その両側面の溝に左右のM字金具をそれぞれ差し込み、ゆっくりと奥へスライドさせます。(可動棚板は、可動帆立間用の他に可動帆立一側板間用もあります)

